

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 雇用の拡大ペース小幅加速(2月5日までの週の失業保険申請) 発表日: 05年2月10日(木)

~非農業部門雇用者数は3ヵ月続いた10万人台前半の水準から上方シフトの可能性~(No. UI - 165)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001, 4518 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

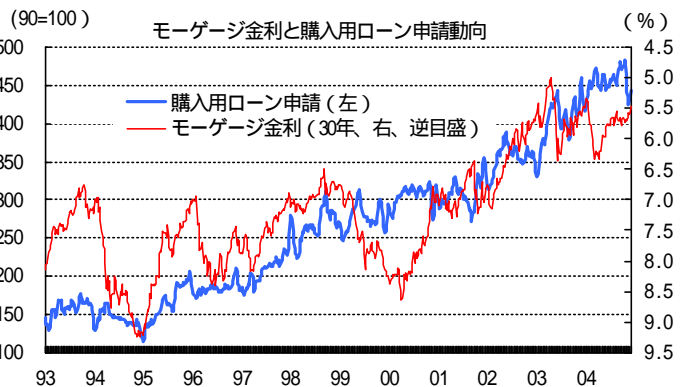
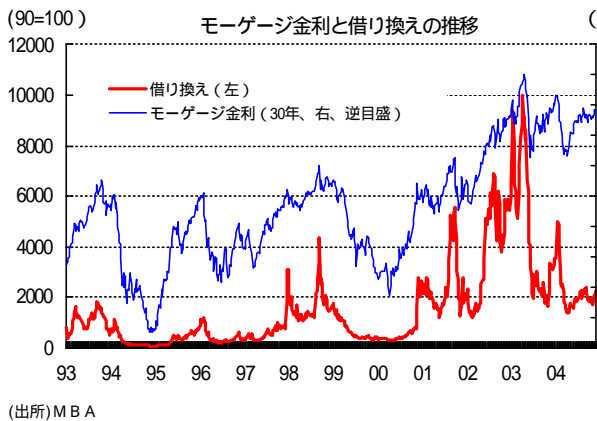
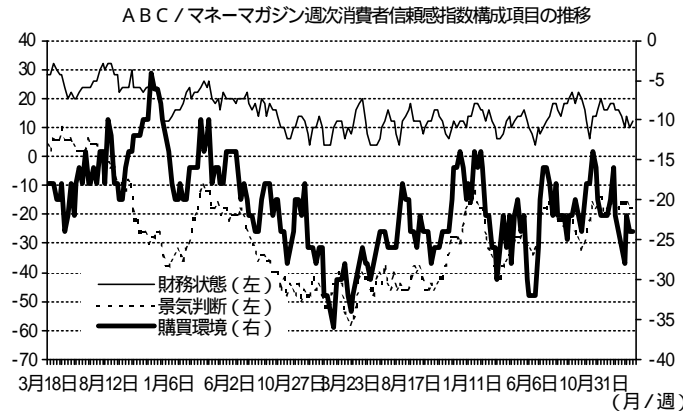
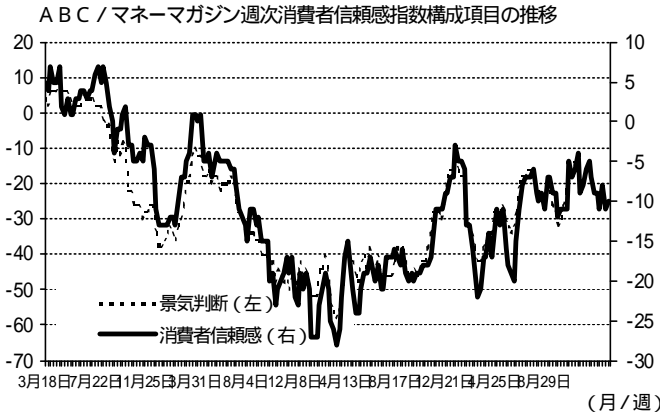
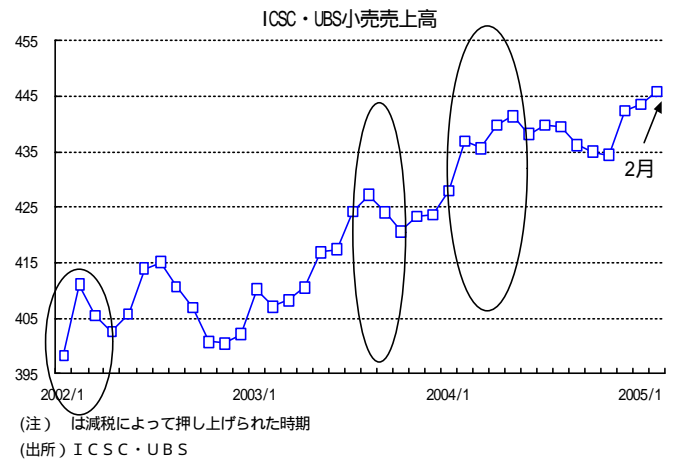
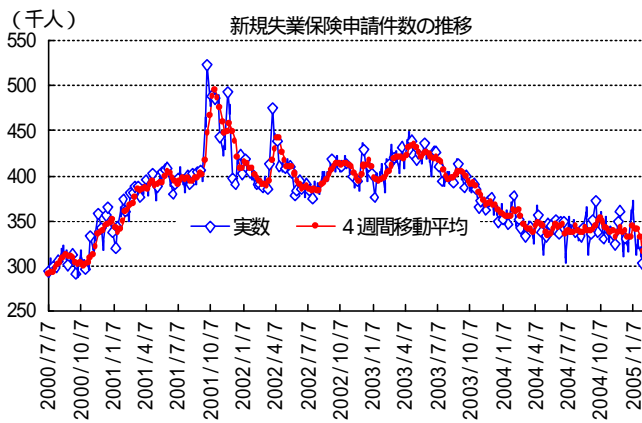
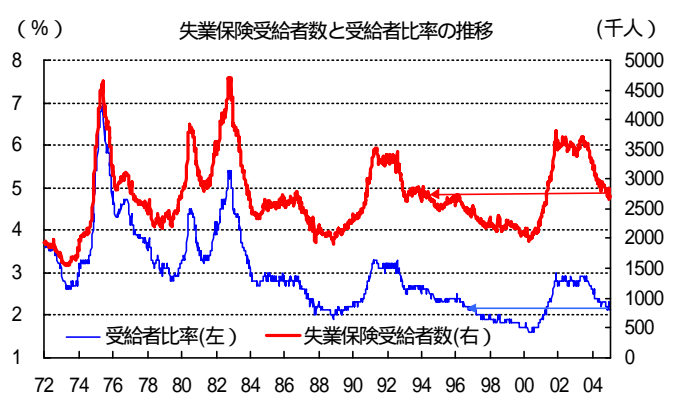
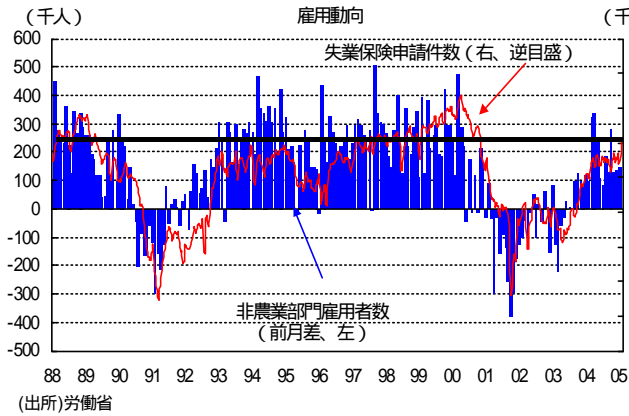
**4週移動平均で
31.6万件と昨年3
月以降続いた横ば
いトレンドから小
幅水準低下**

2月5日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、30.3万件と前週の31.6万件から1.3万件減少した。雇用創出と喪失の分岐点である40万件を大幅に下回り、市場予想である32.5万件を下回った。製造業でのリストラの減少や天候の回復によって建設業での申請件数が減少した影響と考えられる。トレンドを示す4週間移動平均でも、31.6万件と前週の33.2万件から減少しており、昨年3月以降続いた34万件前後でのトレンドから小幅水準が低下している。昨年11月から今年1月にかけて非農業部門雇用者数は前月差+100千人台前半で推移していたが、足下で前月差+200千人超のペースで拡大しているとみられる。

一方、1月29日に終わった週の失業保険受給者数は、273.7万人と依然として水準が高いものの緩やかな減少トレンドを辿っており、雇用環境の改善を示している。また、1月29日に終わった週の失業保険受給者比率が2.2%と1月の2.2%と同水準で推移していることから、足下で失業率は1月の5.2%程度で推移している模様である。

**四半期では1~3
月期も雇用の拡大
ペースはほぼ変わ
らず**

先行きの雇用を取巻く環境をみると、労働生産性はプラス基調を維持しているものの、余剰生産能力の縮小によって、前期比年率+9%といった高い伸びから鈍化傾向を辿る可能性が高い。このような状況のもと、雇用に先行する景気が2003年4~6月期から2004年10~12月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大していること、マンパワー社による新規雇用計画調査での1~3月期の雇用計画や経営者団体の景況調査における雇用計画など、各種雇用関連調査は採用拡大を示唆していることから、企業の採用意欲が強い状態にある。また、規模別でも多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画は1月に15%と12月の17%から低下したが高い水準で推移しており、非農業部門雇用者数で前月差+150~250千人程度の拡大が持続することを示唆している。ただし、10~12月期の成長率が7~9月期から鈍化したこと等から、2005年1~3月期の雇用は月平均で前月差+150~200千人程度の増加が見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。